

若手会員の会 活動報告

<http://jweld.jp/welnet/index.html>

(若手会員の会からのお知らせはホームページにも掲載しています)

第 61 回 溶接学会若手会員の会運営委員会議事録

若手会員の会運営委員会 副委員長 庄司 博人 (大阪大学)

上月 渉平 (JFE スチール)

Minutes of the 61th meeting of the WELNET steering committee

日 時：令和元年 9 月 18 日 (水) 12:15 ~ 13:15

場 所：東北大学工学部材料科学総合学科マテリアル
材料実験棟 2 階 るつぼホール 2B

資 料：welnet61-0 議案

welnet61-1 第 60 回運営委員会議事録 (案)

welnet61-2 2019 年度上期活動報告・2019 年下期活動
計画

welnet61-3 会計関係

welnet61-4 全国大会関係

welnet61-5 編集関係

welnet61-6 広報・ML 関係

welnet61-7 研究会・施設見学会関係

welnet61-8 勉強会関係

welnet61-9 出前講義関係

welnet61-10 グローバルネットワーク活動関係

出席者：

荻野 (阪大), 庄司 (阪大), 上月 (JFE), 松田 (阪大),
瀧田 (秋田県産業技術センター), 本間 (日本製鋼所),
鳥形 (IHI), 伊與田 (大工大), 笠野 (住友重機械工業),
三浦 (福井大学), 鴫田 (阪大), 山下 (阪大), 劉 (阪
大), 北野 (物材研), 秋山 (神鋼), 大田 (広島県東部

工業技術センター), 久保 (岩手県工業技術センター),
古免 (熊大), 佐々木 (日立造船), 正箱 (香川高専),
宮城 (日立), 物種 (三菱電機), 山本 (阪大), 吉川 (川
崎重工業) (敬称略)

出席 24 名, 委任 11 名 (運営委員総数 35 名)

書 記：上月, 庄司

【審議・報告事項】

welnet61-1 に基づいて前回議事録 (案) が提出され、
承認された。また荻野委員長より本日の運営委員会は
時間短縮のため主に審議事項のみ議論とすることが述
べられた。

1. 新運営委員紹介

荻野委員長より、以下の新運営委員が紹介された。
古免久弥氏 (熊本大学), 山本啓氏 (大阪大学)

2. 活動報告, 活動計画

荻野委員長より、welnet61-2 に基づいて 2019 年度上
期の活動報告ならびに 2019 年度下期の活動計画が報告
された。11 月に令和元年度第 2 回研究会・施設見学会

が予定されており、MLにて案内済みであること、また参加者を募集中であることが説明された。

3. 会計関係

山下委員より、welnet61-3に基づいて会計報告がなされた。例年に比べると執行率はやや低めである旨が説明されたが、これは研究会講演を企業の方にお願ひした影響があるとの説明があった。やや余り気味であるため、積極的な活用が呼びかけられた。

4. 全国大会関係

瀧田委員より、welnet61-4に基づいて2019年度春季全国大会のイブニングフォーラムについてのアンケート集計結果の報告がなされた。また、2019年秋季全国大会のポスターセッションの審査・設営に関する説明と積極的な参加が呼びかけられた。

2020年度春季全国大会のイブニングフォーラムでは、2019年度と同様にJWESが助成・支援する若手研究者との積極的な交流を図るためコラボレーションを前提にフォーラムを開催することとした。2019年度春季全国大会のイブニングフォーラムでは時間がややタイトかつテーマも広がったことから、2020年度春は講演者の人数を削減し、テーマを2つ程度設定してそれぞれ3～4人でプレゼンを行うのはどうか、などが荻野委員長から提案された。また、他学会で活躍する研究者を招いて極端にアカデミックな内容のフォーラムにして一般聴講者の呼び水にしてもよいのではないか、シーズーニーズマッチングのような形で企業と研究機関の溝を埋めていけるような場にするのもよいのではないか、などの意見も委員から寄せられた。

荻野委員長より、テーマとして幅を持たせた方が良いのか、または尖らせた方が良いのか、継続してメール等を通じてディスカッションを行うことが述べられた。

5. 編集関係

伊與田委員より、welnet61-5に基づき平成31年度(前期)および平成31年度(後期)の若手ページならびに令和2年度(前期)の若手ページ編集スケジュールについて報告がなされた。また、溶接学会誌の次回特集記事(第89巻3号)は若手担当であるため、次の世代に想いを残したいという気持ちを込めて、篠崎学会長と委員長・副委員長との対談を「未来の溶接“志”に

向けたメッセージ」という対談記事にすることが紹介された。また、若手スポットライト記事(溶接タマゴ、私の溶接履歴)に関して、執筆者の推薦などの協力が呼びかけられた。

6. 広報・ML関係

劉委員より、welnet61-6に基づいてメーリングリストの現状に関する報告がなされた。また、TWIとの共催で国際会議が開催される旨紹介があった。

委員よりMLに関して、研究会・勉強会の開催案内に「転送禁止」と書かれており、特に企業内で回しにくいとの要望が寄せられたが、荻野委員長よりu-welnetメーリングリスト(運営委員向け)は基本的に転送禁止としているが、研究会の案内等はwelnetメーリングリスト(若手会員全体向け)でも案内するようにし、積極的に展開していくようコメントが述べられた。

7. 研究会・施設見学会関係

荻野委員長より令和元年度第1回研究会・施設見学会が非常に盛況であった旨の報告がなされ、次回開催される第2回研究会・施設見学会への積極的な参加、周囲への声掛けが呼びかけられた。また、第3回の研究会・施設見学会は例年であれば九州支部の若手委員会と共催という形をとっていたが、九州支部の若手委員会は昨年で解散している。そのため、第3回研究会・見学会は若手の会主催としながら、九州地方で開催することとし、九州支部へは若手の会から共催のお声掛けをすることとしたい旨の審議が挙げられ、委員からの承認が得られた。

また、開催場所(九州)について、心当たりがある方は是非ともご協力頂きたいとの要請がなされた。開催時期は2020年の1月の予定である。

8. 勉強会・出前講義関係

鴫田委員より、welnet61-8,9に基づいて勉強会ならびに出張講義に関する報告がなされた。主に勉強会について、発足の経緯と現状について説明がなされ、今後の進め方に関して提案がなされた。具体的にはあらかじめ研究テーマ案を複数提案し、参加希望者を募ること、年1回・講演4～5件の勉強会実施とすることなどが提案、審議され、各委員の承認が得られた。荻野委員長よりテーマ設定に関しては業種や分野で分け

る等の工夫が必要であるとの旨のコメントがあったが、まずはテーマ案を広く募集することとした。

9. グローバルネットワーク関係

北野委員より、wenet61-10に基づいて2019年度のGN活動ならびに2020年度以降のGN活動について報告がなされた。今年度は山下委員（阪大）がIIW主催のYPICへ派遣され、ワークショップならびに懇親会へ参加された旨の報告がなされた。2020年度以降のGN活動について、YPIC等への参加など会議への参加を継続することや海外の研究機関に短期間滞在するこ

となどで海外研究者とのネットワーク形成を推進するなどの意見が述べられた。そのほか、荻野委員長より日本で開催される国際会議のタイミングに合わせて海外研究者を招待して国際セミナーを開催するなどの提案もあった。グローバルネットワーク活動の趣旨は、国際的ネットワークのプラットフォームを形成することであり、これを達成することを念頭に置いたときにどのような活動が効果的か、引き続き議論が必要である。意見は継続して募集しており、もしアイデアがあれば随時提案を受け付ける旨のコメントがあった。

読者の **Goiken-bako** (御意見箱) 受付中! 皆様の御意見をお聞かせください。

「自由編集ページ」として若手会員の会から毎号メッセージをお送りさせていただいております。さらに内容の充実を図るために読者の皆様の御意見・御感想をお聞かせください。若手会員だけでなく幅広く御意見をいただければ幸いです。皆様からの御意見は「若手会員の会 運営委員会」で参考にさせていただきます。下記の項目について御回答の上、郵送またはFAXでお送りください。お送りいただいた方の中から抽選で毎号1名様にQuoカードを差し上げます。

◆送付先： 溶接学会 若手会員の会「Goiken-bako」係 FAX: 03-5825-4331
〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町4-20 (Subjectに"Goiken-bako"と御記入ください)
溶接会館6F

----- 「Goiken-bako」記入項目 -----

- (1) 氏名、フリガナ、年齢、溶接学会入会年、所属、住所 (Quoカード送付先)
- (2) 何月号についてお答えいただけますか。()
- (3) 「自由編集ページ」についてのご意見・ご感想。
- (4-1) 今月の溶接学会誌の全ての記事の中で、興味のある記事 (ページ番号でお答えください)。
- (4-2) 今月の溶接学会誌についてのご意見・ご感想。
- (5) 今後「自由編集ページ」や溶接学会誌で取り上げて欲しい記事。